

祐善寺だより

第35号

発行日

2015年10月10日

真宗大谷派 祐善寺 住職/岡崎 賢 福井県丹生郡越前町上糸生20-2 TEL 0778-34-5170 FAX 0778-34-5170

前坊守・103歳にて逝去！祐善寺葬が営まれる



葬儀は、厳かに執行されました

当寺の二十世坊守（俗名・岡崎愛子儀）が、去る七月二十六日、寿算一〇三歳にて往生の素懐を遂げられました。

葬儀は、祐善寺葬として七月二十九日午前十時より、北海道北見市照恵寺様御住職の御導師のもと、二十数名の法中・助音僧にご参勤賜り、一五〇名を超える方々のご参詣を戴いて厳かに営まれました。

長い間、祐善寺を護ってこられた前坊守とのお別れに、参詣者は皆、「くろくさまでした」との思いを込めて焼香しておられました。

喪主挨拶

住職 岡崎 賢

このたびの前坊守・岡崎愛子儀逝去にあたりましては、皆様には格別のご理解とご協力を賜りまして祐善寺葬として厳かに葬儀を執行していただきましたことを、心より御礼申し上げます。

併せて、前坊守に対して永年に亘って賜りましたご支援ご厚情に対しまして、衷心より厚く厚く御礼申し上げます。皆様、本当に本当に有り難うございました。

合掌

葬儀委員長挨拶

門徒総代 野村 明良

去る七月二十六日祐善寺前坊守岡崎愛子様が、齢一〇三歳を以って永眠されました。心からお悔やみ申し上げます。また、通夜、葬儀と法中の皆様方、そして親戚の方々、又、ご門徒の皆様方には大変なお力添えを頂き、心より御礼申し上げます。次第でございます。

前坊守様は、昭和八年に祐善寺にお興入れされ、六人の子供さんに恵まれました。寺という厳格な中にも

和やかな生活を送って居られた昭和二十八年に、住職がお亡くなりになりました。それからというもの、家族を守り寺を守り、一口では言いえない苦勞の連続だったと聞いております。女手一つで必死に家族を守る話は良く聞く事ですが、寺を守り門徒のことを考え、世の人々の幸せを願ってこられた前坊守様のご苦勞にお応えするために、役員一同、祐善寺葬を決定し、門徒の皆様方にお力添えをお願い致しましたところ、皆様、快くお引き受け下され、心から感謝申し上げます。

通夜・葬儀、そして満中陰法要と滞りなく終了致しました。皆様には行き届かないことばかりで、さぞご立腹なされた事も多々あったことと推察申し上げます。皆様のご懇情に甘えてお許し頂く事、心よりお願い申し上げます。本当に有り難うございました。



◆門徒代表弔辞

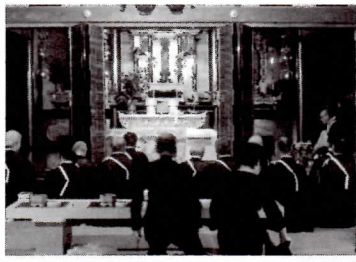
祐善寺門徒代表 野村 軍一

祐善寺前坊守愛子様の葬儀に当たり、祐善寺門徒を代表しまして、衷心より哀悼の意を表します。

前坊守愛子様は、超恩寺のご長女としてお生まれになり二十一歳でこの祐善寺に嫁がれました。その後六人のお子様に恵まれて、前御住職をしつかりと支えられながら幸せな日々を過ごされたこと伺っております。

しかし誠に悲しく残念なことではありますが、その幸せなお暮らしは長くは続かなかつたのであります。昭和二十八年、前御住職がご病気のためにお亡くなりになりました。時に、前御住職は五十歳、前坊守の愛子様は四十歳であられました。

その時、十八歳のご長男を頭に、五人の男のお子様と女のお子様お一人を合わせて六人のお子様を抱え、最愛のそして最も頼りにしてこられた夫・ご



通夜で焼香をされる参詣の方々

住職を亡くされた愛子様のお気持ちちは、察するに余りあるものがあります。その時、十八歳であられ

たご長男の正孝様は京都大学への御入学を果たされ、今、わたしども門徒を真心をもって導いて下さっている現在のご住職は僅かに四歳の可愛い盛り、そして最も幼かった治様はよちよち歩きの二歳であられたのです。

これら愛する六人の子供達を明日からどうやって育てていこうか、いやそれより先に、この祐善寺の法灯をどうやって守って行くべきか……、前坊守愛子様のお心が休まることは片時もなかったのではなからうかとお察し申し上げます。本当に大変な毎日であった辛かったことでしょう。ご苦労様でした。本当に本当に、ご苦労様でした。有り難うございました。

今祐善寺が、こうして立派に法灯を守り続けることができますのは、前坊守愛子様が六人のお子様方のみならず私共門徒一人一人のために流して下さった、汗と涙のお蔭以外の何ものでもありません。私共門徒一同、今ここで改めて心から御礼を申し上げます。本当に有り難うございました。お疲れ様でした。どんなにか辛い日々をお過ごしになられたことでありましょう。でもこれからはお浄土で、安らかな日々を送られるに違いないものと信じます。どうかどうか、安らなさい……。

有り難いことに祐善寺は今、門徒一同が心を一つにしてみんなの力で法灯を

守る努力を重ねています。このように私共門徒が同じ心で事に当たれるのは、前坊守愛子様のお有り難いお心とそのご功績を、しっかりと受け止めておられる今のご住職と坊守様の御指導とお心遣いがあったこととです。これから先も、ご住職並びに坊守様の御指導を仰ぎながら、門徒みんなが力を合わせてこの営みを続けて参ります。門徒一同、今は亡き前坊守愛子様のお御仏前で堅くお誓い申し上げまして、弔辞とさせていただきます。

平成二十七年七月二十九日

◆満中陰法要厳修される

前坊守・大想院釈尼妙愛位の満中陰法要が、四十九日に当たる九月十二日に厳修されました。

僧侶による読経後、親族、ご門徒等、約七十名の参詣者が、前坊守の遺徳を偲び、順次、お焼香がありました。



満中陰法要にも大勢の参詣者によりお焼香を頂きました



お棺は、ご門徒に担がれて石段を下りました

武生・超恩寺の長女として大正元年に出生し、昭和八年に当寺二十世住職、岡崎正謙と婚姻。前住職が昭和二十八年に早逝後、経済的にも困窮していた祐善寺を護りながら、女手一人で六人の子どもを育ててきました。性格は極めて地味で、人当たりは決して良いほうではありませんでしたが、誠実な生き方は、門徒の皆様をはじめ、多くの方々から慕われてきました。法名は、大想院釈尼妙愛と付けられました。

ズームアップ

《前坊守・岡崎 愛子》



花だより

『ネジバナ』

夏草は伸びる 土手も畑も畦道も刈っても 刈っても また伸びる 草丈伸びて 草の数まで増える 刈っても刈っても すぐ伸びる 刈っても刈っても また増える ふと 私は思う
 私の髪は なぜ増えないの 阿弥陀様 何とかありませんこと？
 今日もまたまた草刈りに 草に埋もれた畑の救出作戦 毎年同じ繰り返し
 この場所今年は三度目か
 ギョギョギョギョ！
 作業の動きがピタッと止まった なんとなんと 嬉しいことに 桃源郷が現れた
 ネジバナの群落が現れた
 これまでなかった場所なのに

突然 沢山現れた
 嬉しくなって数えてみたら ナントナント 五十六本 淡いピンクの小さな花々 草の葉陰でニッコリと 可愛く可愛く笑ってた

そつかさつかさ
 私を待っていてくれたのか そつかさつかさ 有り難う
 花の周りを残して刈ったら 自称草刈り名人の仕事も今日は とっても醜い 虎刈りに



家からビールを持ってきて 醜い虎刈りにして
 可愛い子等と静かに乾杯 カンパイ！
 可愛い子等も可愛くカンパイ 嬉しいなあ

昨日より今日が幸せ 明日もつと (G)



平成二十七年年度の 年忌法要を お勤め下さい！

本年度の年忌は左記のとおりでございますので、貴家の過去帳等を御確認していただき、皆様にとられてかけがえのない御先祖様の年忌法要を是非、勤めて下さいますようお願いいたします。

- 五十回忌 昭和四十一年没
- 三十三回忌 昭和五十八年没
- 二十五回忌 平成三年没
- 十七回忌 平成十一年没
- 十三回忌 平成十五年没
- 七回忌 平成二十一年没
- 三回忌 平成二十五年没
- 一周忌 平成二十六年没

平成27年度護持費の志納よろしくお祈いします

祐善寺を永代に互って護持していただくために、護持費をお願いしておりますが、今年も次のおりご志納下さいますようよろしくお祈いします。

◇護持費の使途

- ・報恩講の厳修費や教化事業の実施
- ・本堂を守る火災保険や環境維持費用
- ・本山相続講、福井教区賦課金等
- ・その他

◇年額

一戸平均 一〇、〇〇〇円

◇志納方法

- ・寺へ直接志納する
- ・秋まわりや法事で住職が貴家を訪問の際に志納する
- ・地区の役員さんに志納する
- ・郵便振替口座 (〇〇七七〇一九一三〇七二二)
- ・加入者(祐善寺)へ振り込む

◇志納期限

毎年十一月末日

年越し元旦参り(仮称)を 実施します

皆さん、大晦日にお寺へ来て除夜の鐘を撞きませんか？

大晦日にご先祖様が眠る祐善寺で除夜の鐘を撞きつつ、一年を振り返り、年初めに御本尊の前で、正信偈を唱和して、新しい年が良き年であるように願いを立てよう！

内容

◇一年間、仏壇で使った蝋燭、葬儀用の位牌やお骨袋等の仏事等で使った不要となった品をご家庭から持ち寄って、鐘楼横で焚くかがり火で燃やして、感謝のお念仏を唱えます！

◇除夜の鐘に一年間の自分の煩惱を乗せて、強く撞き放ちます！

◇年明けとともに、真っ先に御本尊にご挨拶をして、正信偈のお勤めをします！

◇「一年の計(願い・誓い・抱負等)を、各人、御本尊の前で表明します！

日程

◇十二月三十一日

・午後十一時

集合・かがり火準備

・午後十一時十分

かがり火点火

・午後十一時十五分

除夜の鐘撞き始め

◇新年元旦

・午前〇時

正信偈お勤め

・午前〇時二十分

お勤め終了「一年の計」表明

・午前〇時三十分

解散



除夜の鐘を撞こう！



除夜の鐘に自分の煩惱を乗せて撞き飛ばそう！



本堂迎拝(濡れ縁)改修工事始まる

本堂周りの迎拝(濡れ縁)の板が、風雨等にさらされて節くれだつてきましたが、このたび、迎拝濡れ縁の板を全面的に取り替える工事を、鯖江市の桑原文子氏より御寄進を



節くれだつた板を取り除いています

いただきました。改修工事は、先日より始まり、十一月二日の祐善寺報恩講は、新しくなった迎拝の中で厳修されます。有り難うございます。

草刈奉仕作業に参加!!

松島 守

毎年恒例の草刈作業。私的には、仕事の都合上、毎回参加することが出来なくて大変残念に思っています

が、今回(七月二十一日)は、お陰様で参加させて頂くことが出来ました。



草刈奉仕作業は、梅雨明けの炎天下で行われました

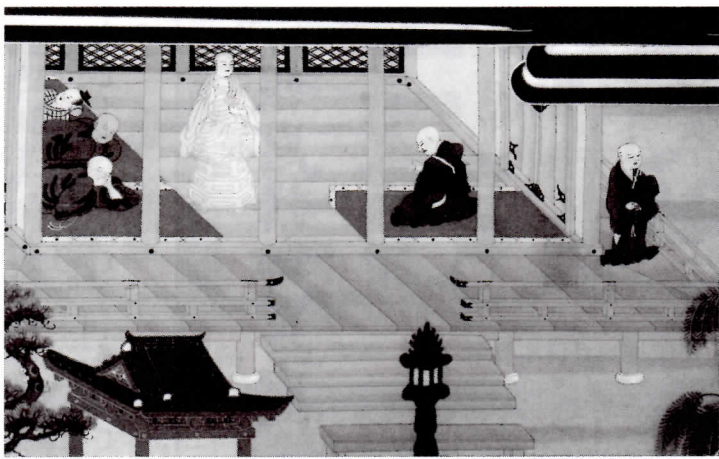
地も皆様の積極的な行動で、短時間でつそうとした草むららが、さっぱりと涼感を得られるように、見違えるようになりました。

作業終了時には、新鮮なお刺身の差し入れまで頂戴し、全員で舌鼓を打ち、疲れを癒しました。

早朝から厳しい暑さの日でしたが、ご住職の温かいお出迎え、見慣れたたくさんのご門徒仲間のお顔を拝見して、門徒としての繋がりとというものを強く感じました。

炎天下で連帯感を生み気持ちの一つにする草刈作業で、次回、是非とも一緒に快い汗を流しませんか？

今回参加出来なかったご門徒様、



親鸞聖人は、二十九歳で比叡山を下り、聖徳太子にゆかりの六角堂に百日間、参籠されました。その九十五日目の明け方、夢に聖徳太子の次のようなお告げをうけられました。

行者宿報設女犯（行者よ、これまで僧は女犯してはならないという戒律を、今こそ破らねばなりません）

我成玉女身被犯（私が、玉の様に美

しい女性となって、あなたの妻となりましょう）

一生之間能莊嚴（一生の間、あなたの仏道の歩みを助け）

臨終引導生極楽（いのち終わるとき、心から喜べるよう極楽浄土へ一緒に参りましょう）

という、お告げに導かれて、親鸞聖人は吉水の草庵におられた法然上人をたずねられました。

図左上方の、白衣を着けて白蓮華に端座しておられるのが聖徳太子の本地・救世菩薩です。その右側で畳に座して合掌されるのも、右端の椽に立ち、東方の群集にお告げを宣説しておられるのも親鸞聖人です。

「親鸞聖人御絵伝」

浄土真宗の宗祖、親鸞聖人のご生涯を広く讃えんがために、親鸞の曾孫に当たる本願寺第三世覚如上人が親鸞聖人の求道の歩みを詞に著し、初稿本の絵は、親鸞聖人の直弟子西仏房の孫、淨賀法眼に描かせています。

詞の部分「御伝鈔」、絵の部分「御絵伝」と呼び、各寺院の報恩講において御絵伝四幅を余間に奉掛し、厳粛に御伝鈔が拝読されます。

（参考文献『親鸞聖人伝繪』）

其の31

事 納骨 一口メモ

納骨

納骨は、四十九日（満中陰）の法要以後に行います。実際には、地方（地域）の習慣や家庭の事情等により、葬儀終了後に納めたり一周忌などのご法要に併せて行つたごさまであります。

私たちにとって、身近な人の死の事実を短期間に受け入れることは、なかなか安易なことではありません。働き盛りの夫を亡くされた妻や子にとりましては、生きる望みが失せましよう。子を亡くされた両親にとりましては、今にも「ただいま」と帰ってくるのではないかと思う日々がつづくかもしれません。生前中の関係が深ければ深いほど、亡き人への思いは離れがたいものです。

しかし、亡き人は、いつまでも嘆き悲しみ、暗く落ち込むような生き方を望んではいけないはずです。むしろ、人間として立ち直り、生き活きと生きることを私たちに望んでいるのではないのでしょうか。

ですから、ご遺骨を中陰壇（前回参照）にご安置することは、決して、ご

遺骨（故人）にすがりつくためではありません。死の事実を見つめ、亡き人から私にかけられた願いを仏さまの教えに聞きたずね、真の依り所をもって生きなさいとの促しではないでしょうか。そのことに気づいて初めて、嘆き悲しむしかない生き方が転ぜられ、亡き人に手が合う新しい人生が始まるのです。

残された者にとつて納骨とは、死の事実を厳粛に受け止めることにも、これからの人生の出発を意味する大切な儀式でありましよう。

さて、本山であります京都の東本願寺では、須弥壇取骨（しよみだんしゆこつ）といまして、分骨が納められます。また、親鸞聖人のお墓所でもあります大谷祖廟（おわたそびやう）（東本願寺から車で十分程度）では、分骨も全骨も納められます。このような東本願寺や大谷祖廟への納骨には、人間としての生き方を指し示す親鸞聖人の教えを、自らの依り所に生きようとする願いが込められているのです。

東本願寺や大谷祖廟への納骨等については、「祐善寺」までお尋ねください。

（サンガ）より



お知らせ



報恩講御案内

十一月二日(月)

日中 午前十時

お齋とき 午前十一時半

速夜 午後一時半

法話 敦賀市高照寺様

つきましては、親鸞聖人の御遺徳を偲び、右の通り報恩講を厳修いたしますので、万障お繰り合わせの上、御家族、御近所、御法友お誘い合わせの上、何卒御参詣下さいますよう、御案内申し上げます。

婦人部活動のご案内

婦人部の活動を始めてから今年で三年目を迎えます。昨年は、声かけをして下さったおかげで、十五、六名もの方々が、お手伝いに来て下さり、とても嬉しく思いました。有り難うございました。男性の方も参加して下さい、仕事もはかどり、きれいになりました。お昼の食事も、準備して下さったおかげで、皆で美味しく戴くことができました。会話も弾み、仲間の輪が少し広がりました。

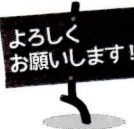
ご自分の体調に合わせて、マイペースでお手伝いして下さいが良いです。遅刻、早退も自由です。顔を見せて下さるだけで、嬉しいです。男性の方も参加して頂けると心強く、倍以上の力になります。

今年も左記の通り実施しますので、皆様、ご参加ご協力下さいますよう、よろしくお願ひいたします。

日 時

十月十八日(日) 午前九時集合
活動内容

本堂・庫裡のガラス拭き
持ち物
古手拭・古タオル等



ボランティア募集!! 雪囲い作業奉仕

と き 十一月八日(日)

持 物 鎌(カッター)、軍手、
合羽(悪天時) 等

傷害保険 加入します。

作業内容

雪囲い作業は、高所での作業ばかりでなく、高所が苦手な方は、雪囲いシートのヒモ結びや資材運び等の作業もありますので、ご都合のつく方は、是非ご協力をお願いします。

お願ひ

甚だお手数ながら、ご協力いただけます方は、前日までに祐善寺へご連絡下さいますよう、お願ひいたします。



銀杏は如何ですか?

当寺の境内地に二本の銀杏の大木があり、十一月中旬頃から大量の銀杏の実を落とします。

もし、ご家族等で銀杏を入用の方がおられましたら、気兼ねなく銀杏を拾っていただけたら、と思えます。よろしくお願ひします。

編集後記

★先ずは、「岡崎愛子様前坊守」。七月に、一〇三歳でのご逝去、衷心よりお悔やみ申し上げます。

★今年の主な出来事を振り返ってみました。

★今年の新成人、一二六万人(昨年より五万人の増) 人口減少に少しでも歯止めがかかれば。

★三月、北陸新幹線金沢開業し、福井県への経済効果を信じて。

★国宝、姫路城の大手守閣保存修理完了(総工費二十四億円)。歴史探検家になって、悠久のロマンに接し、歴史を紐解く。

★五月、大阪都構想住民投票(僅差で、大阪市存続決定)。

★六月、「改正公職選挙法」公布平成二十八年六月十九日より十八歳以上に引き下げた。

★七月、一日には、「うるつ秒」が実施、(午前八時五十九分の一の間が六十一秒に)

★「祐善寺前坊守」ご逝去。

★九月、六年ぶりのシルバーク(五連休)、家族で行楽地へ。次のシルバークは、二〇二六年、それまでお元気でいよう。

★台風十八号の影響で関東・東北地方で記録的豪雨、鬼怒川・茨井川決壊。

★「安全保障関連法成立」歴代政権が禁じてきた、集団的自衛権の行使を可能に。自衛隊の海外活動が地球規模に広がり、安保政策は大きく転換する。これで、「国民の命と平和な暮らしを守り抜くために必要な法制と」。しかし、元長官や多くの学者からの「違憲」の指摘あり。九条が保障する「平和的生存権」はどこへ、「日本国」沈没寸前か。以上のように、上半期の主な出来事をまとめてみました。

★皆様はどう思われましたか。今日の平和な日本を壊さないでね。門徒の皆様、穏やかな日々をお送りください。

合掌

(上野三)